

2020年度 事業報告書

2021年4月19日
丹波篠山の子ども食と健康を考える会

1. 事業の名称

コロナ禍の子どもの食と居場所づくりおよび課題調査事業

2. 事業の期間

2020年8月1日～2021年3月31日

3. 事業の目的

- (1) 子どもたちの健康維持のため、安心安全な食と居場所を提供する。
- (2) 日々育児に忙しい保護者のレスパイトケア。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の子育て世帯への影響を調査する。

4. 事業実施にあたっての課題

厚生労働省の貧困率状況調査によると、子どもの相対的貧困率は2000年以降13～16%で推移しており、7人に1人の子どもが相対的貧困の状況で生活している。

(相対的貧困は、居住している地域の所得中央値の50%に満たない所得しかないと指す。)

中でも、ひとり親家庭の相対的貧困率は、母子家庭では51.4%、父子家庭では22.9%となっており、ふたり親家庭の5.9%に比べると非常に高くなっている。(独立行政法人 労働政策研究・研修機構の「第5回(2018)子育て世帯全国調査」による)

そして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大。学校園の休校、緊急事態宣言の発令など、子どもたちの運動不足やストレス、保護者のストレスが懸念される。また、生活福祉資金貸付の申請件数が増えるなど、困窮している世帯が増えているが、どのような世帯が、どんなことに困っているのか、解決すべき課題が何かについて明らかになっていない。

5. 事業内容

(1) ささっこ青空ひろば

子どもたちの安心安全な居場所(遊び場)を月1回程度作り、テイクアウトで食事を提供するとともに、昆虫採集、植物採集、昔遊びなどの講師を招き、コロナ禍でも楽しく遊ぶ機会を提供した。

回	日付	場 所	活動内容
1	2020. 9. 27	petit prix および周辺の森	冬野菜の植え付け、生き物探検、ヤギと遊ぼう、等
2	2020. 10. 18	西紀北 川阪地区の田んぼと川	虫博士による虫のお話、田んぼや小川で虫採り・魚獲り
3	2020. 11. 8	南新町 みなみ会館隣の公園	木の端材を使った工作、ビンゴゲーム
4	2020. 12. 13	B & G 体育館	MIZUNO 公認指導員による「親子でカラダを動かそう」
5	2021. 1. 24	チルドレンズミュージアム	しぜんの万華鏡をつくろう
6	2021. 2. 21	今田体育館	トイライフ 北大学公認コーディネイショントレーナーによる「遊びの教室」

参加世帯数・参加人数

回	参加世帯数	保護者数	子供の数	合計人数
1	15	19	31	50
2	14	20	30	50
3	17	24	30	54
4	14(+2)	17(+2)	26(+4)	43(+6)
5	6(+15)	10(+23)	13(+29)	23(+52)
6	13(+5)	15(+7)	24(+10)	39(+17)
合計（延べ数）	79(+22)	105(+32)	154(+43)	259(+75)

※ (+○)については、お弁当の持ち帰り（食支援）のみの数

「コロナ禍でも子どもたちの居場所（遊び場）を」と始めた『ささっこ青空ひろば』。1度目の緊急事態宣言が解除された後も「自粛」を求められ、家に閉じこもりがちな子どもたちの居場所が必要にされていると改めて実感した。ただ、コロナ禍と関係なく、子どもたちが遊ぶ公園や機会、保護者同士が出会い、交流を深め、相談できる関係を築く機会を求める声は大きい。また、昼食に弁当を提供したことは単なる食支援ではなく、保護者が「1食作らなくても済む」「出かける準備の負担も減る」という目に見える効果に留まらず、「気持ちも楽になる」とメンタルへの効果もあった。

(2) ひとり親世帯への弁当提供

アンケート調査をするにつれ、食費以外の生活費を削って食費に回している実態が明らかになった。当団体は個人情報を持ち合わせていないため、まずはひとり親世帯に限定して、平日夕食の弁当を格安でいきょうすることとした。大人200円、子どもは1人目のみ100円、2人目以降は無料とし、子どものたくさんいる世帯でも利用しやすくした。また、弁当づくりは障害者作業所をはじめとする福祉事業所に依頼し、福祉事業所の支援にもつなげる形態とした。

回	日付	受け渡し場所	世帯数	保護者数	子供の数	合計
1	2021.2.5	市民センター、城東公民館	13	13	19	32
2	2021.2.17	市民センター、城東公民館	18	18	34	52
3	2021.2.26	市民センター、HIkoOKI	23	23	45	68
4	2021.3.15	四季の森生涯学習センター、城東公民館	24	24	47	71
合計（延べ数）			78	78	145	223

以下のような感想をいただいております、活動の必要性を痛感している。

- ・お弁当美味しく頂きました。子どもはイベントみたいに毎回お弁当を心待ちにしていました。帰って一緒に同じお弁当を食べることで、親子のゆっくりとした時間も確保できました。これからも続けてくださると嬉しいです。
- ・いつも美味しいお弁当ありがとうございました。本当に楽しみにしてました。普段食べられないような豪華なお弁当でした。また再開してくださいよろしくお願いします。
- ・お弁当ありがとうございました。とても美味しかったです。お弁当だと野菜も残さず食べられます。煮物も、普段は食べないのに、大根食べてるし。ボリュームもあるし、栄養バランスもいい、毎回、子供は、とても楽しみにしてます。お弁当は、栄養バランスよく食べれてうれしいし、私もお弁当だと家事のお休みで、とてもうれしかったです、本当に、ありがとうございました。

(3) 子育て世帯アンケート

市社会福祉課、教育委員会の協力も得て、小学校・幼稚園・保育園・こども園の全世帯に配布し、239の子育て世帯から回答を得ることができ、次のような実態が浮かび上がった。

- ・全体の 11%の世帯がコロナ前から食費を削り、他の生活費を優先。コロナにより 21%に増えている。
- ・貯金できない。教育資金への不安。→子ども・家族の将来への不安。
- ・子どもに手をあげてしまう世帯が少なからずある。
- ・3才児が幼稚園に入れない。
- ・公園が少ない、遊具がない。
- ・就学後の発達障害児の療育機会が少なすぎる。相談できる場もない。
- ・養育費がキチンと受け取れない。・働きやすい職場にしてほしい。

その他、アンケート結果の集計を含めて報告書を作成し、市および教育委員会へ実態を伝えた。報告書については、ホームページで公開した。<http://aozorahiroba.info/>

6. 次年度に向けて

アンケート結果から、食費以外の生活費を削って食費にまわしている世帯は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、およそ 2 倍の 20%に達している。子どもの居場所（遊び場）も大切ではあるが、食支援の必要性を改めて感じている。

次年度は、生活に困窮している世帯を中心に、食の支援により一層力を入れていきたい。